

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73103	3	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	終末期看護援助論 (End of Life Care)				
担当教員名	吉田 澄恵／篠木 絵理／阿部 恭子／小黒 道子 清水 準一／山本 由子／加藤 星花				
授業の概要及び到達目標					
<p>【概要】</p> <p>人が加齢や疾患によって終末期に至る経過を一連のものとして理解し、終末期（エンドオブライフ）における患者とその家族のQOLの維持向上のための援助の基盤となる考え方・基礎的な知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンドオブライフを生きる人の病状、苦痛や苦悩、生活背景、生きる価値や希望、他者との関係の築き方等の個別性・多様性の理解を深め、個別ケアを導くことができる。 2. エンドオブライフを生きる患者を取り巻く家族、社会を全体としてとらえ、療養の場（在宅、入院など）の相違を踏まえて、患者にとっての最善を導くアプローチを理解できる。 3. 終末期の事例検討を通して、自己の価値観を意識化し、患者にとっての最善のケアを導く方法を理解できる。 					
準備学習等					
<p>本講義は、あらゆる発達段階、そしてケアの場にある人の、病や人生の延長線上にある「自らの死」に向き合う過程において必要とされる看護支援について学ぶため、既習の疾病治療論および看護援助論等で学んだ、病をもつ人々の受ける治療や病によって生じる全人的苦痛をはじめとする病気体験を復習すること。</p>					
成績評価の方法	<p>【ミニレポート】 13回×2点（配点26点）</p> <p>【レポート課題】 1回（配点14点）</p> <p>【最終試験】 授業終了後 60点</p>				
テキスト	特に指示しない				
参考図書	<p>K.K.キューブラ・P.H.ベリー・D.E.ハイドリッヒ著 鳥羽研二監訳、「エンドオブライフ・ケア終末期の臨床指針」、医学書院、2004</p> <p>日本医師会、「がん緩和ケアガイドブック」、青海社、2010</p> <p>平原佐斗司、「非がん患者の緩和ケア」、南山堂、2011</p>				

備 考	本科目の単位取得は、臨床看護学実習（急性期・慢性期）の前提条件となっています。 各教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。
授 業 計 画	
<p>第1回：導入：終末期看護援助論の目的、科目構成 終末期にある患者とのコミュニケーション</p> <p>第2回：がんとともに生きる人のエンドオブライフケア</p> <p>第3回：慢性疾患患者のエンドオブライフケア ①</p> <p>第4回：慢性疾患患者のエンドオブライフケア ②</p> <p>第5回：急性疾患患者のエンドオブライフケア</p> <p>第6回：老年期のエンドオブライフケア</p> <p>第7回：在宅で療養し看取りを迎える人々のエンドオブライフケア</p> <p>第8回：母性領域のエンドオブライフケア</p> <p>第9回：小児領域のエンドオブライフケア</p> <p>第10回：精神疾患患者のエンドオブライフケア</p> <p>第11回：終末期看護における倫理上の問題</p> <p>第12回：終末期の病態と症状マネジメント</p> <p>第13回：臨死期のケア技術</p> <p>第14回：エンドオブライフケア方法論 ①</p> <p>第15回：エンドオブライフケア方法論 ②</p>	